

---

# 空想艇

百瀬華音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空想艇

### 【Nコード】

N2381A

### 【作者名】

百瀬華音

### 【あらすじ】

寝坊癖のついた艦長。いつものように昼前に起きてみたが……朝寝坊はやめよう、という話

空想艇の朝は、はつきり言って遅い。それというのも、艦長の起床時間が遅いからだ。

今日も当然のごとく姿を見せない。すでに日が高くなっている。流れる白雲に時折さえぎられる太陽が、きらきらと笑っていた。

艦内の奥深く、長い廊下を歩いていくと、クルーたちの部屋の一角がある。月に一度の大掃除は忘れ去られ、物置代わりの部屋からほこりっぽい空気が流れてくる。関係者以外立ち入り禁止のプライベートなその空間に、艦長室は埋もれているのだ。

「ちよつと、もうお昼ですよ！ 起きてください！」

さきほどから艦長室の扉をたたいているのだが、一向に返事がない。いい加減、手も疲れた。いよいよ痺れを切らしたクルーは勢い良く扉を開け放った。

薄暗い中でも見える部屋は質素で、他のクルーの部屋と大差はなく、窓とベッドと机がひとつずつ付いているだけである。そう大きくないとはいえ、机の上には本がつまれており、本来の用をなせるような状況ではない。ゴミ箱はもうパンク状態で、ティッシュやお菓子の袋やらが辺りに散乱していた。

無造作に広げられている本に足をとられながらもスイッチを探り当てると、部屋の様子が細部まで照らし出される。

ブラインドは二十四時間体制で下ろされている。日光には縁のない睡眠時間を確保している彼女にとって、突然の光は毒であった。光から逃げるように、もそもそと布団のふくらみが動く。

しばらくすると、布団の下から腕が伸び、枕元にあった眼鏡をやや乱暴に引き込んだ。少し間を置いて、頭がいきりと生えた。顔だけ布団から出したその姿はまるで亀である。すだねのような前髪を耳にかけると、時計盤を寝ばけ眼で確認する。

静かな時を秒針が刻む。

目覚まし時計がゼロを指したその瞬間、空想艇内に悲鳴に近い雄叫び（？）がこだました。艦内を揺るがす絶叫の主、艦長が飛び起きたのだ。

「……ウルサイです」

轟音に右耳を押さえ、迷惑そうな顔をしている少年。何の因果か、先輩方の後輩イジメか、こんな役目を背負わされている。こんな役目、寝ばすけな上司をたたき起こすというなんとも面倒な。

「もう朝？　つーか昼だよね、十一時って」

上体を起こすと頭を押さえたため息をついた。寝癖のついた髪をくしゃくしゃとさらに乱す。

布団を跳ね除け、足だけベッドからおろした。ちょうどベッドに座るような形である。傾いた眼鏡を掛けなおすと、目覚まし時計をもとあつた場所へと戻した。

「悪い悪い」

軽く反動をつけ、重い腰をあげる。

よたよたと服を一式掛けてある椅子へと歩み寄った。淡い色のシヤツに伸ばしたが、何かを思いついたらしく、指を丸め、翠に向き直る。

「……着替え、見たい？」

艦長室の扉がボタンと乱暴に閉じられた。

今も伸びきったタンクトップにピチピチのハーフパンツという刺激的な服装ではあるが、花も恥らう乙女のお着替えを生で拝む、となると恥ずかしいものがあつたらしい。

「愛い奴め。見たいと言われても困るけどさあ」

艦長は翠の予想通りの反応に、一人笑った。手早く着替えると、廊下へと出た。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2381a/>

---

空想艇

2011年1月22日02時34分発行